

2026年9月28日

「おもいでふたばのがっこう ふたば制服ギャラリー」川内村展をYOTASHIで開催

双葉郡14校・男女夏冬36体の制服を一堂に展示

震災から15年 制服を通して、双葉郡にあった学校と暮らし、今へ続く地域の営みを伝える

フレックスジャパン株式会社（本社：長野県千曲市）が運営する「ひなた工房 福島双葉」は、福島県双葉郡14校の制服をぬいぐるみサイズの“ぬい服”に仕立て、男女・夏冬あわせて36体を展示する巡回展「おもいでふたばのがっこう ふたば制服ギャラリー」川内村展を、2026年10月2日（金）から10月25日（日）まで、川内村の複合商業施設「YOTASHI」で開催します。2026年1月11日に双葉町で始まった本巡回展は、今回の川内村展で8会場目を迎えます。



川内小中学園・男子制服の“ぬい服”



川内小中学園・女子制服の“ぬい服”

村の暮らしが集まるYOTASHIが、8会場目に。

会場となるYOTASHIは、ファミリーマート、村の特産品などを扱う「けろりん堂」、クリーニング店、地域の交流や催しに使われる「ふれあい広場」が集まる複合商業施設です。買い物や用事、人との交流のために村民が日常的に訪れる、川内村の暮らしに根ざした場所です。会期初週の10月3日（土）・4日（日）には、村内で「川内村ヒルクライム＆グランfond川内」も開催されます。村内外から多くの人を訪れる週末に、YOTASHIを入口として、制服に残る学校の記憶と、現在の川内村の暮らしに触れていただきます。

双葉郡に、こんなに学校があった。

本展の中心にあるのは、震災の記憶だけではありません。14校の制服が一堂に並ぶことで見えてくるのは、学校の数だけ子どもたちがいて、家族や先生がいて、地域の店や仕事、行事や交流があったという事実です。制服を入口に、双葉郡に確かに存在した「普通の暮らし」を伝えます。

震災前の記憶と、震災後に生まれた記憶をつなぐ

川内村展では、震災後の2021年に開校した川内小中学園の制服も展示します。震災前から受け継がれてきた制服と、震災後に生まれた新しい制服。その両方を同じ空間に置くことで、過去を振り返るだけではなく、双葉郡の暮らしが現在へ続いていることを示します。

本展で伝えたいこと

制服を見ることは、学校を見ることです。そして学校を見ることは、その周囲にあった暮らしを見ることでもあります。本展は、失われたものを懐かしむためだけの展示ではなく、地域に積み重ねられてきた日常を確かめ、今ある暮らしと、これから生まれる記憶へつなぐ取り組みです。川内村での展示を通して、学校の記憶を世代を越えて共有し、人が集まり、語り合うことが、地域の新たな賑わいにつながることを目指します。

開催概要

展示名	おもいでふたばのがっこう ふたば制服ギャラリー in 川内村
期間	2026年10月2日（金）～10月25日（日）
会場	YOTASHI（福島県双葉郡川内村大字下川内字宮ノ下25-1）
展示内容	双葉郡14校の制服を、男女・夏冬あわせて36体の“ぬい服”として展示

今後の巡回予定

2026年11月1日（日）～11月29日（日）	葛尾村復興交流館あぜりあ（葛尾村）
2026年12月3日（木）～2027年1月11日（月・祝）	震災遺構 浪江町請戸小学校（浪江町）

ふたばのがっこう 特設サイト



<https://restitch.jp/blogs/news/futabanogakko>

<本リリースに関するお問い合わせ先>

フレックスジャパン(株) ひなた工房事業部 担当：唐木澤（からきさわ）
TEL：026-261-3000 / MAIL: karakisawa@flexjapan.co.jp

思い出をチカラに。川内村から未来をカエル。

